

ロシアの対アジア太平洋地域戦略の変化と極東開発の現状  
—ウラジオストク IR (カジノ) 特区を中心に—

京都経済短期大学・准教授  
安木新一郎

1. 問題意識

2014年のロシアによるクリミア併合以来、ロシアは日米欧から経済制裁を受けており、国際原油価格の低迷と相まって2年連続でGDP(国内総生産)成長率はマイナスとなった。また、ロシア連邦政府・中央銀行は2014年から年成長率が2.5%を超えない低成長期に入ったと予測している。こうした中、経済成長をつづけるためには極北、シベリアおよび極東・バイカル地域の開発をいっそう推し進める必要があり、特にロシア極東には高付加価値でかつ国際競争力のある産業を育成しようと、自由港や先行社会経済発展地域など各種経済特区を設置している。

こうした特区の中には観光・リクリエーションをテーマとしたものがあり、特に20億ドル規模の投資計画が発表されているのが、ウラジオストクのカジノ特区である「沿海統合型エンターテイメント・ゾーン」である。

本報告では、ウラジオストクのカジノ特区の現状について、現地視察の結果を交えて報告することで、ロシア極東における外資受け入れの実態と課題について考察する。

そもそもロシア極東は陸上では中国や北朝鮮と国境を接し、対岸は日本と米国ということで、経済開発よりも安全保障が優先されてきた。こうした安全保障優先、軍事優先という国家の姿勢に大きな変化はないが、軍事力を維持ないし拡大するためにも、外資導入を含めた経済(再)開発により人口を維持し産業を活性化させる必要がある。

手っ取り早い経済振興策としては中国との貿易や中国からの労働力および資金の受け入れが考えられるが、ユダヤ自治州やアムール州といった中国国境地帯では、貿易総額の半分以上が中国であり、また多くの中国人農民や留学生が滞在しており、中国化が著しいと言える。

本報告で取り上げるカジノ特区も、現時点では中国(マカオ<sup>1</sup>)資本の独占状態にあり、売り上げの8割が中国人などの外国人という、ほぼ中国人のための特区となっている。他の産業においても中国化が進む場合、安全保障上の脅威と見なされれば、ロシア連邦政府

---

<sup>1</sup> マカオのカジノ業界は増収基調をここ10年ほどつづけ、マカオは世界最大のカジノ拠点となったが、カジノ監察協調局の2015年1月2日の発表によれば、2014年12月のカジノ収入は前年同月比30.4%減と過去最大の落ち込みを記録し、その結果、2014年1年間の収入は前年比2.6%減の3,515億パタカ(約5兆3,000億円)にとどまった。マカオ特別行政区が年間カジノ収入の集計を開始した2002年以来、2009年のプラス9.7%がこれまでの最悪の記録だったが、はじめてマイナスに転じた。中国の習近平国家主席が進める汚職撲滅策としてのぜいたく禁止措置や中国経済の成長鈍化が主因と考えられる(*Bloomberg, January 2, 2015*)。歳入の8割をカジノに依存するマカオ政府にとって、カジノの減収は大きな問題である。ただし、マカオ特別行政区が2016年3月1日に発表した統計によると、2016年2月のカジノ収入は前年比0.1%減の195億パタカだった。2016年1月の中国本土からの個人訪問客数は前年比2.6%増、2月7~13日の旧正月期間中の本土からの総訪問客数も4.5%増だった(*Reuters, February 2, 2016*)。

はロシア極東への中国からの投資を制限し、代わりに日本や韓国からの投資を促進しようといっそう努力するようになるかもしれない。

## 2. カジノ特区をゆく

2017年6月4日に、ロシア極東沿海地方ウラジオストク市近郊にあるカジノ特区「沿海」(игорная зона “Приморье”/the Primorye Integrated Entertainment Zone)を訪ねた。この特区には現在ティグレ・デ・クリスタル (Tigre de Cristal Resort & Casino) という1軒のカジノがある。

カジノ特区はアルチョム市にあって(住所は沿海地方アルチョム市ムラヴィイナヤ小湾73)、ウラジオストク(クネヴィチ)空港から14kmしか離れていないものの、ウラジオストク市中心(ウラジオストク鉄道駅)からは50kmほど離れており、車で1時間かかる。カジノ特区を通る公共交通機関はなく、カジノへはタクシーを拾うか、旅行会社を通じて車を借り上げるなどして行くしかない。

カジノ特区の総面積は619haだが開発許可が下りたのは263haだけで、風光明媚なムラヴィイナヤ小湾に面した海岸付近の開発はまだ行われていない。ティグレ・デ・クリスタルのある場所は、敷設予定の道路セクター1~3および5の内、ウラジオストクとアルチョムを結ぶ幹線道路から少しムラヴィイナヤ小湾方面に入ったセクター1にあって、他のセクターの整備は進んでおらず、カジノ特区の創設はまだ始まったばかりという印象を受けた。

筆者は2009年7月1日にロシア全土でカジノ営業が禁止となって以降、例外として設けられたカジノ特区の1つであるウラジオストクについて定点観測をつづけている(安木2009, 安木2012, 安木2016)。2015年10月8日にティグレ・デ・クリスタルはテスト開業し、11月11日から本格営業が始まった。今回、開業2年目のティグレ・デ・クリスタルに実際に行ってみることにした。

## 3. ティグレ・デ・クリスタルの独占

1991年12月にソ連が解体され、1992年1月からロシアでいわゆる「自由主義的経済改革」が始まって25年が過ぎたが、「資源依存経済」(久保庭2011)と呼ばれる原油と天然ガス輸出に依存した経済体制ができあがってしまった。ロシア国内では製造業の空洞化(衰退)と商業肥大化(サービス産業化)が進み、これに密接に関連する形で巨額の資本逃避と海外直接投資(FDI)受入額の低迷がつづいている(久保庭2004)。

ロシア極東における海外直接投資の代表例として、オホーツク海の樺太(サハリン)沖海底油田・ガス田開発の「サハリン・プロジェクト」がある。日本の原油・天然ガスの輸入先の多様化にとって樺太沖の開発は重要だと考えられるが、石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が丸紅と樺太沖で原油探査をおこなおうとしたところ、アメリカ財務

省がクレームをつけた (Bloomberg, July 14, 2017). 日本政府・企業がロシアへ投資することに米国は反対で、対ロ投資は制限されている。

他方で、沿海地方については、極東最大の人口を抱える連邦構成主体（州）であるとはいえ、原油も天然ガスも採れないことから、FDI の件数も金額も多いとは言えない。沿海地方でソ連解体直後から投資をつづけている日本企業としては住友商事が挙げられ、林産企業テルネイレスという合弁企業が数少ない FDI の例である。近年ではロシアの国策会社ソラリスと提携してウラジオストクに自動車組立工場をもつ日系自動車メーカーもあったものの、撤退が相次いでいる。

外資導入がうまくいかないという経済的特徴をもつロシアおよび極東において、当初カジノ特区は 20 億ドルの投資がなされるものと期待されていた。それが現在、絵に描いた餅になりつつある。ティグレ・デ・クリスタルの後がつかないのである。

ティグレ・デ・クリスタルの運営会社は G1 エンタテイメント社で、G1 の株式はすべて Oriental Regent 社が保有し、Oriental Regent 社の株式の 60% を Summit Ascent Holdings (凱升控股有限公司) がもっている。凱升控股はマカオのカジノ王スタンリー・ホーの息子ローレンス・ホー・メルコ社 CEO が大株主であり、また、凱升控股はティグレ・デ・クリスタルを経営する専門の投資会社となっている。なお、ホー CEO は大阪にカジノを作ろうとしていることで日本でもよく知られた人物である (Bloomberg, May 29, 2017)。

2017 年 4 月初めの時点で、カジノ特区への投資会社は 4 社あった。その内、実際にカジノ開業の成功したのはティグレ・デ・クリスタルの G1 社だけである。G1 社は 2015 年 10 月のテスト開業までに 1.72 億ドルを投資し、2017 年下半年から 2019 年下半年までに 5 億ドルを追加投資する予定となっている。

他に、Seaside Resort (NagaCorp, 本社英領ケイマン諸島。実質はカンボジア。予定投資総額 3.5 億ドル)、Selena World Resort (Diamond Fortune, ロシア。9 億ドル) および Phoenix Resort Casino Primorye (Royal Time Group, ロシア。2.2 億ドル) の 3 社が名乗りを上げていた。

しかしながら、Naga 社は 2018 年の開業を発表していたが、作業中に遺跡が見つかったことから予定に間に合わないとして、2019 年に第 1 期の開業を目指すとしている。また、ロシア系資本 2 社については、Diamond Fortune 社が計画通り進んでおらず、Royal Time グループに対しては、2017 年 4 月 5 日に沿海地方開発公社が地方裁判所に対して Royal Time グループが投資合意書で定められた期日を守れないとして合意破棄を求める訴えをおこした。すなわち、ウラジオストクのカジノ特区は少なくとも 2019 年上半期までは G1 社の独占がつづくことになるのである。

ティグレ・デ・クリスタルの玄関前には広々とした駐車場があり、道路を挟んで Phoenix 建設予定地の看板が立っていたものの土地整備が止まっていた。他の 2 社については看板を見つけることができなかった。

以下で、筆者が実見したものを加えた、ウェブサイト上で公開されているティグレ・デ・

クリスタルの2016年1月～12月の業績と概要について見てみよう（カジノ IR ジャパン・ホームページ (<http://casino-ir-japan.com/?tag=russia>)).

2016年1年間の売上高3億2,300万香港ドルで、調整後 EBITDA は1億3,200万香港ドル、当期損失は1,500万香港ドルとなった。

2015年10月の開業から総計40万人の客を受け入れており、2016年には毎日1,000人強が訪問した。訪問者数の7割はロシア人で、カジノでは歌手によるコンサートや各種イベントがおこなわれており、賭博に関心の薄い地元民も多数訪れている。

とはいえ、訪問者数の3割でしかない中国人と韓国人を中心とした外国人が売上高の8割を占めている。筆者が実見したところ、カジノ・スペースには一般スペースの他に中国人の高額利用者向け特別スペースが2つある。また、併設されるホテルの食事はほぼ完全な中華料理で、中国人、特に東北部からの集客を想定している。カジノは中国人のための特区と言っても過言ではないだろう。

ティグレ・デ・クリスタルの投資計画の概要であるが、最終投資額は約7億米ドルとされている。

第1期の投資額は1億7,200万米ドルで、121室のホテル、ルーレットやブラックジャックなどが遊べるテーブル65台（VIP25台、マス40台）、スロット約800台という設備となっており、フル稼働時には1,100人が雇用されているという。

第2期は2017年下期に着工し、2019年下期に開業予定であり、投資額は最終的に5億米ドルに達すると予想されている。この第2期では10haの敷地内にホテル、リテール、MICE コンファレンス設備、レストランなど新たに作る。第2期の完成により新たに2,000人分の雇用創出が期待されている。

#### 4. ウラジオストクと中国・韓国・北朝鮮

清朝から奪ったムラヴィヨフ＝アムールスキー半島の先端に「東方を征服せよ」という意味のウラジオストク港が作られたのは1860年で、坂が多いことから「東洋のサンフランシスコ」の異名がある。6月上旬の最高気温16度、最低気温6度で、朝晩は霧が出る。運よく日中は晴天に恵まれたが、気温が低いことにはかわりはない。ウラジオストクより北の内陸部に行くと夏は暑く冬は雪深く、水が豊富で農業適地が広がっている。ところが、ウラジオストクは夏も寒冷で特に風が強く冷たいこともあって農業には向かない土地柄である。そのため、清朝時代はほとんど人が住んでおらずアムールトラが出没するような場所であったが、昔からの地名が残っている所もある。

カジノ特区のできた場所は、正式にはムラヴィイナヤ小湾のゲレツラ岬なのだが、地元民はチェレパハ岬と呼び、岬の近くにある淡水湖はチェレパシエ湖という。チェレパハはロシア語で亀のことで、先住民は亀と呼んでいたようだ。実際に海岸に行くと、亀の頭のような形をした岬を見ることができた。ウラジオストク周辺は昔からナマコの産地で、カ

ニ、ウニ、ツブガイ、オヒョウなど海産物の宝庫である。チェレパハ岬周辺のウスリ湾の奥はニシンの産卵地だそうである。

他方で、ウラジオストクは歴史遺産にあまり恵まれていない。帝政期や第二次大戦直後に建てられたものがほとんどで、特にディナモ・スタジアムや海岸の石垣などといった目立つ建造物は日本人抑留者の強制労働の結果であって、誇れるものは何もない。

2012年のAPEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議の開催に前後して、新しく橋を架けたり、映画館を改装したり、マリインスキー劇場の分館を作ったりするなど、観光名所を作ることに熱心で、ウラジオストクでは観光客の呼び込みに必死であることは見て取れた。

今回筆者が訪れた際、ウラジオストク中心部や空港には韓国人や中国人が予想外にたくさんいたので驚いた。特に韓国の東海とウラジオストクはフェリーで海路つながっていることもあって、ウラジオストクの海の駅はDBSと書かれたフェリーから降りた直後の韓国人でいっぱいだった。

ウラジオストク中心からエゲルシェリド（Эгершельд）という岬を南に行くと、ルースキー島を見ることのできる高台に着く。今年に入って原油価格がWTIで50ドル/バレル近辺で推移したことからロシア経済は景気がよく、狭い半島でも次々と新しいマンションやオフィスビルが建設されていた。ウラジオストク市内は3時間もあれば見て回れるので、暇をもてあました中国人観光客をエゲルシェリドでよく見かけるが、今回はやはり韓国人の団体旅行者が目立った。

その時、木陰にうずくまってタバコをふかしている男性がいたので話しかけてみると北朝鮮人労働者だった。赤いバッチは付けておらず、ブロークンなロシア語で建物の修理をしていると答えてくれた。

今年5月18日から万景峰号が北朝鮮の羅津からウラジオストクに毎週木曜日に来て金曜日に戻るというのを繰り返すようだ。乗客は中国人やロシア人観光客だそうで（Тacc, 18 мая, 2017г.）、労働者を運んでいるかどうかはわからない。

ウラジオストクが外国の開かれた街になるということは、アジア人の存在感が目立つことを意味する。

## 5. カジノ特区の今後

ホーCEOは大阪にカジノを作るメリットとして、大阪が京都に近いことを挙げ、外国人に人気の観光地である京都とカジノを組み合わせることによる相乗効果を得られる点を挙げ、また東京や横浜には既存の施設が多数そろっておりカジノは必要なく、大阪こそふさわしいと述べている。

対照的に、ウラジオストクにはこれといった観光資源はなく、孤立的で自立的なカジノ特区＝IR空間を独自に作る必要に迫られている。この意味で、ウラジオストク・カジノ特区は、砂漠の真ん中の何もないところに忽然と現れたラスベガスのような街を目指すこと

になり、大阪のような複合的観光都市にはなりそうにないと思われる。

結果的にウラジオストクのカジノ特区を独占的に開発しているメルコ社は、韓国・カンウォンランド（江原道にある、韓国国内唯一の韓国人が遊べるカジノを運営している会社。韓国の他のカジノは外国人専用）との提携を発表しており、今後はウラジオストクだけでなく大阪や韓国との関係深化を図っている。こうした外資の資金や経験がウラジオストクのカジノ特区にどのような変化をもたらすのか、観察を続けたい。

写真 ティグレ・デ・クリスタル



出所) Booking.com

(<https://www.booking.com/hotel/ru/tigre-de-cristal-resort-amp-casino.ja.html>)

地図 カジノ特区プリモリエ



出所) に基づき筆者作成.

## 参考文献

久保庭真彰（2004）「ロシア経済成長の新たな波と産業構造」『経済研究』, 55（2）, 135 頁～154 頁.

久保庭真彰（2011）『ロシア経済の成長と構造：資源依存経済の新局面』, 岩波書店.

安木新一郎（2009）「ロシア沿海地方におけるカジノ特区計画の現状」『ロシア・ユーラシア経済』, 927, 2009 年 10 月, 44 頁～51 頁.

安木新一郎（2012）「ロシア沿海地方における観光開発について：ウラジオストク・カジノ特区を中心に」『ユーラシア研究』, 46, 2012 年 5 月, 9 頁～12 頁.

安木新一郎（2016）「ロシア沿海地方の新しい特区について：ウラジオストク自由港とカジノ特区」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』, 1006, 2016 年 7 月, 16 頁～27 頁.

カジノ IR ジャパン・ホームページ (<http://casino-ir-japan.com/?tag=russia>)

Bloomberg

Booking.com